

牧之原市の未来のために

継続かつ改革

牧之原市は、誕生から本年10月で12年となります。この間、富士山静岡空港の開港や国道473号バイパスの開通、スズキ(株)の完成車工場の進出などを通じて、大きな発展を遂げてきました。

一方で、東日本大震災以降、地震や津波などの災害に対する意識の高まり、社会情勢や生活環境が変化する中、人口減少や少子高齢化が進展してきています。

こうした、歴史的な転換期に即応するため、新たな社会背景に対応したまちづくりの指針として、将来都市像を「絆と元気が創る 幸せあふれみんなが集う NEXT まきのほら」とする第2次総合計画を平成27年4月にスタートいたしました。「宝子ども育成プロジェクト」や「輝く高台開発プロジェクト」など5つの重点プロジェクトを推進し、「住んでみたい・住み続けたいと思えるまちづくり」の形成に努めてまいりました。

本年春に実施した市民意識調査では、子育て支援などの政策に市民満足度が上昇し始め、その効果が徐々に表れてまいりました。このほかのプロジェクトも確実に進捗しています。

更に、牧之原市は、2020年東京五輪の中国サーフィン競技のホストタウンとして登録が認定されました。富士山静岡空港開港後、積極的に取り組んだ中国との交流が大きく評価されたものと思います。もう一つのホスト国であるアメリカも登録認定に向けて積極的に活動をしているところがあります。

こうした状況の中、西原市長が平成29年6月議会において、今季限りで退任する意向を表明され、同時に後継者指名を打診されました。身に余るお話と同時に責任の重大さに、熟慮を重ねる中で、自治会の皆様を始め、これまでご支援頂いた皆様に相談いたしましたところ、多くの皆様より、是非とも受けるべきとのご意見を頂きましたことから、次の市政経営のリーダーとして挑戦することを決意したものであります。

市政経営は、これまでの行政経験を発揮し、市民の皆様と共に作り上げた「第2次総合計画」を確実に推進し、「住んでみたい」「住み続けたい」と思えるまちづくりの実現を目指します。

また、日々変化する社会情勢に応じて必要となる改革の政策決定に当たっては、これまで市民の皆様と共に学んでまいりました「市民参加と協働」「対話」を基本にリーダーシップを発揮し、安心安全、経済的にも豊かなまちづくりの姿をきちんと示し、職員と共に牧之原市を成熟期へと導いてまいります。

人口減少や少子高齢化の波は待ったなしです。スピード感をもって、多くの市民の皆様と「**牧之原市の未来のために**」をスローガンとしてまちづくりに全力で取り組んでまいります。